

ふるさとわがまちづくり

高町自治区

高町の歴史

高町の地に人が入ったのは、明治時代後半に所有権を取得した、飛島村の株式会社大賣農林部から管理を任された一家が大正7年頃に移り住んだのが始まりと言われています。その後昭和10年代に所有者が変わり、苧麻工場が建設され苧麻の栽培から、麻製品の製造まで20名ほどの人達が働いていました。しかし戦争が激しくなった昭和19年頃からは食料確保の為、農兵隊の人達も加わって、さつまいもを作っていたようです。

高町の名の由来

元々の名称は「四郷東山」で、名の示すように四郷の里から見て「東の山」からこの名称がつけられ区域は現井上町と高町でした。昭和11年に井上地区が四郷井上と改められ、高町は四郷東山として名が残ったが、区としては井上に含まれていました。その後、昭和23年3月、29戸の東山区が分離独立し区の誕生となりました。更に年を経て、昭和42年猿投町が豊田市に合併した時点で、従来からの地名である「東山町」は、すでに高橋地区に存在していたことから、別名を付けることになり、丘陵地であることから「高町」に従来の東山を付けて「高町東山」としたのが由来です。

高町の開拓

戦後食糧増産の施策に沿って20戸が入植し開拓が始まりました。この辺りは松林と笹が一面に生い茂り、キツネが住処としていた穴が多くありました。開拓には大変な苦勞を重ねて一家総出で麦、スイカ、さつまいも、大豆等の栽培から始まり葉タバコ、果樹へと範囲を広げながら、昭和30年代には酪農へと変遷していきました。しかし昭和40年代頃からは高度成長の波に乗り、2代目はほとんど勤めに出て兼業農家が多くなると、一般住宅も新家を中心に



増加し住宅地域へと変貌していきました。

地域の変貌

昭和60年から、東南地区に豊田市運動公園の建設が始まり町の様子が一変し、更に西地区には福祉村の建設も始まり、町の約50%は公共施設が占めるようになりました。そして春夏秋冬を通し、多くの市民が集まるスポーツの町、福祉の町として賑わいを増していきました。

高町のまちづくり活動

高町のまちづくり活動は、「住民同士の交流を通じ心豊かに」をキャッチフレーズに、市のまちづくり活動費補助制度を使って、平成15年からスタートしました。テーマは、「安心して住める町づくり」「健康に過ごせる町づくり」「潤いのある町づくり」です。具体的には、「健康づくり」「ふれあいの場づくり」「四季の花作り」を継続して活動しており、その成果としてログハウスの建設、公園内の花壇作り、調整池の周りには、桜を植樹するなど形になって残っています。このまちづくり活動の主体は、従来から活動しているインフォーマルグループです。壮年層のヒューマンクラブ、中年層の高友会、女性層のつむぎの会そして老人クラブが各年齢層をカバーし、それぞれ自主的な活動と連動させながら活発に行動しています。

高町の将来

高町の世帯は現在159戸、アパート等63戸とこじんまりした区です。その特長を生かし、みんなが参画でき、ふれあいのできる活動を継続し、更に安全、安心、健康なまちづくりに努めていきたいと思っています。

高町の風景



ログハウス



花壇

高町自治区データ

(H19.4 現在)

設立：昭和23年3月
世帯数：159世帯
45世帯(昭和51年度)
人数：約600人
組数：10組
面積：0.67Km²
自治区たより：「たかまちだより」年4回発行
回覧：月2回
ちびっ子広場：1箇所
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：59箇所
小学校：四郷小学校区
自治区会館：高町区民会館

住民同士の交流を通じ心豊かに